

農林水産省関東農政局長賞

「おばあちゃんのおにぎり」

海老名市立東柏ヶ谷小学校

4年 栃木 琴乃

「あなたは本当に食が細いね。」
と私はよくお母さんに言われます。

「ご飯をたべなさい。」

そう言われるとよけいに食べたくなくなり、お腹もあまり空かないから、いつもご飯を残してお母さんに怒られています。

これは去年の夏の話です。私はいつもよりもっとご飯が食べられなくなりました。はじめは食欲が出ないなど思うくらいでしたが、どんどん食べられなくなつて最後には口に物を入れることも嫌になつてしまいました。そんな日がなん日も続きました。

お母さんは最初はご飯を食べない私に怒っていたけど、だんだん心配になつて、とうとう泣いてしまいました。病院の先生には何ともないと言われたので、お母さんは私の食べやすい物や好きな物を色々と用意してくれました。でも食べられませんでした。

私はどんどん元気がなくなつて顔色も悪くなつていきました。すぐく体がだるくて、ご飯を食べる体力すらなくなつてしまいました。そんな日が四日くらい続くと、お母さんがいっぱい涙を流しながら、おばあちゃんに電話をしていました。電話の向こうでは、おばあちゃんとおじいちゃんが私のことを心配していました。

次の日私が寝ていたら、ピーポーンとインターホンがなりました。ドアの前にはおじいちゃんが両手に荷物を持って立っていました。荷物を開けると朝早くからおばあちゃんが作ってくれたお弁当がたくさん入っていました。お弁当の中には、私が前に食べて美味しいと言った物や、私の好きな食べ物がたくさん入っていました。そして私の一番大好きなおばあちゃん特製おにぎりも入っていました。私はこのおにぎりを食べると、いつも心がほつとするので、おばあちゃんの作るおにぎりは、小さくてまん丸くて、ごま油の香りがします。中には細かくきざまれた大葉とごまが入っています。私がおばあちゃんの家遊びに行くと必ず作ってくれます。

私は泣きながら、おばあちゃんの作ってくれたおにぎりを食べました。不思議といつもよりも美味しく感じて一つ食べることができました。お母さんも安心して笑っていました。おじいちゃんも安心して電車とバスに乗って

帰って行きました。

私はおばあちゃんに電話して「ありがとう」と泣きそうになりながら言いました。おばあちゃんは優しい声で

「ご飯は泣きながら食べないほうが美味しいよ」と言ってくれました。私は皆の愛情のつまったおにぎりを今でも忘れません。今でも少食だけど、また皆を心配させたくないので頑張ってご飯を毎日食べています。

今度おばあちゃんの家遊びに行った時はお兄ちゃんや、従姉妹達と一緒に笑いながらご飯を食べたいと思います。